

しごとの  
DX

仕事がしやすくなる

新事業の創出や生産性・安全性等の向上  
による持続可能な産業の実現

# 作業日報のデジタル化からはじめる工場のDX (三幸電機株式会社)

2017年から設備の稼働状況や生産状況をデータ化し、製品の動きや流れをデジタル化することで工場の「見える化」に取り組んでいます。「現場ファースト」のデジタル化によって得られる「データ」を分析することで、大幅な生産性の向上を実現しています。

## “やってみなはれ・DX”

## 生産性の向上だけでなく、採用希望者も増加

三幸電機株式会社 常務取締役 中村 厚郎さん

### ■ DXに取り組んだきっかけ

「収益性の高い工場を構築する」という企業方針を掲げたことから、工場の「改善活動」に取り組むことになりました。改善するためには「生きた情報」の収集、つまり生産現場のデータをリアルタイムで集計する仕組みが必要と考え、その手段としてデジタルツールの導入を進めました。

#### ① 作業日報は改善のためのネタが詰まった「重要な帳票」

作業日報は単なる生産の記録ではなく、改善のためのネタが詰まった「重要な帳票」といえます。しかし、生産現場の管理監督者は日常の業務に追われ、作業日報を集計できていないのが現状です。

そこで、まずは一番身近な作業日報をデジタル化することで、誰が、いつ、どの設備で、どの品番を、いくつ、何時から何時まで生産したかを「データ」としてリアルタイムで集計することから始めました。



#### ② 難しいシステムを導入する必要はない

難しいシステムを導入するのではなく、普段使っているエクセルやバーコードを組み合わせたもので、現状を大きく変えることなく作業日報のペーパーレス化を進めることができます。

一度にあれもこれも導入するのではなく、身近にある小さなことから実績を積んでいくことを心がけています。

DXを進めていくとこれまでの「企業の文化」を少しずつ変えることとなります。まずは「現場の中心人物」に導入の目的や使いやすさを事前に説明し、理解してもらうことから進めました。

#### ③ まるで未来の工場みたい

身近なことから少しずつデジタル化を進め、今ではビジュアル面にも遊び心を加えた20ほどのシステムが常時稼働し、改善活動を継続しています。

一人一台タブレットを持ち、モニターも見ながらの作業は若い世代にとって魅力的に映るようで、「まるで未来の工場のような」と採用希望者が増えています。

タブレットは監視するのではなく、作業の補助をするのが目的です。まるで2人で作業をしているかのような安心感があります。

### DXの取組によるメリット

#### 《従業員側》

- システムがサポートしてくれることで、安心感をもって作業ができる



#### 《会社側》

- 従業員の改善意識が高まることでコスト意識が身につく
- 生産性の向上だけでなく、従業員満足度が高まることで、採用希望者の増加や退職者の減少につながる

#### これからDXの取組をされる方へのメッセージ

「やってみなはれ・DX」、経営者のこの一言で、これまでなかなか進まなかった製造現場の改善が大きく進みます。企業文化が変わり、改善活動の集団となって企業価値が高まっていきます。大きなシステムをいきなり導入するのではなく、まずは手ごろなところから始めてみてはどうでしょうか。



#### PROFILE

三幸電機株式会社

【所在地】三重工場：いなべ市北勢町京ヶ野新田568-5

【業種】電気機械器具製造業